

# 「数学の父」に続け

## 学会が招待講演会創設

「高木レクチャー」  
京大で25日から

日本数学会は、「日本の現代数学の父」と呼ばれる高木貞治（一八七五—一九六〇）の名を冠した招待講演会「高木レクチャー」を創設、第一回レクチャーを二十五、二

十六の両日、京都大（京都市左京区）で開催する。一流の数学者の講演を聞き、議論すること、新しい数学を創造する場を日本につくろうと企画。プルバギ・セミナー

と東京大（春）を基本に開催。第一回には整数論のスペンサー・プロック教授（シカゴ大）、応用数学のピエール・ルイ・リオンス教授（コレージュ・ド・フランス）ら四人を招待する。

高木は、旧制三高（後の京大教養部）から帝国大理科大（現在の東大）へ進み、ドイツ留学後に東大教授となり、代数的整数論の研究で「類体論」を確立。第一回フィールズ賞（一九三三年）の選考委員五人のうちの一人に選ばれたなど世界的な数学者として活躍した。「フエルマー予想」の解決も、高木理論の延長にあると

いう。

レクチャー責任者の小林俊行・京大数理解析研究所教授は「専門分野を超えて研究者や学生が集まり、数学の創造に必要なひらめきが出る場にした」と話している。